

東京都江戸東京博物館外 6 施設
指定管理者評価委員会
(ホール部会)

令和 8 年 8 月 5 日 (水)

都庁第一本庁舎南側33階 特別会議室 S 6

午後 3 時 00 分開会

金山部会長：それでは、ただいまから東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会（ホール部会）を開催いたします。

私は、本委員会の委員長を務めさせていただきます法政大学名誉教授の金山でございます。

また、本部会の部会長については、「江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会設置要綱」第 6 の 3 により、東京都江戸東京博物館外 6 施設指定管理者評価委員会委員長である私が務めさせていただきます。

円滑な議事進行に御協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都生活文化局文化施設連携推進担当部長の杉山部長より御挨拶があります。

よろしくお願いいたします。

杉山部長：よろしくお願いいたします。杉山でございます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

東京都では、公の施設の設置者ということで、指定管理者による施設管理が適切に行われているかどうか、毎年度評価をしているところでございます。本日は江戸博外 6 施設の指定管理者評価委員会ということでございまして、御出席いただいております。今日はホール部会ということになりますので、前回、美・博部会をやりましたけれども、ホールの関係を御審議いただくことになります。

都立文化施設ということで、都の政策との連動性や管理運営の特殊性から、我々の政策連携団体であります東京都歴史文化財団を指定管理者として今お願いをしております。指定管理期間は令和 3 年度から令和 8 年度までの 6 年間でございまして、今回はその 5 年目に当たります昨年度の事業評価ということになります。委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見をいただきたいということで今日は考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

金山部会長：どうもありがとうございます。

本委員会は専門分野ごとに対象施設を分けて部会を設置しており、本部会ではホールについての評価の審議をいただきます。

なお、評価委員会と美術館・博物館の評価の審議は 7 月 29 日水曜日に終了しております。

ホール部会の評価委員の皆様を御紹介させていただきます。

それでは、井原委員からお願いいたします。

井原委員：井原麗奈でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前田委員：新宿で紀伊國屋ホールとサザンシアターという 2 劇場を担当しております前田と申します。よろしくお願いいたします。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、次第に沿って説明させていただきます。

まず、「2 事前説明」を事務局からお願いいたします。

山添課長：私のほうから資料の確認をさせていただきます。

本日の資料はタブレットに格納しておりますが、資料2と資料3につきましては、紙資料のほうが見やすいと思ひまして、机上に紙で配布させていただいております。

タブレットの操作が分からないですとか、紙資料がないとか、そういうことがあれば今申し出ていただければと思うんですが、よろしいですか。

指定管理者評価委員会につきましては、総務局総務部グループ経営戦略課が定める「東京都指定管理者制度に関する指針」において、委員会を原則公開で開催することとしております。これを受けまして、「東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会設置要綱」第10においても公開について定めておりまして、これに基づき、本委員会を公開で開催をしております。

配布資料及び議事録につきましても、委員会終了後に都のホームページで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

評価に関する御説明をさせていただきます。

まず、流れとしては、一次評価を都で行っておりまして、その評価を参考にしながら本委員会において御審議いただきまして、二次評価を決定していただきます。今後の予定につきましては、本委員会で決定していただいた評価を基に、8月中旬頃を目途に都で最終的な評価を決定して、9月中旬に令和7年度の都立文化施設指定管理者の評価といたしまして、プレス発表とホームページにおける公表を予定しております。

併せまして、評価の内容を指定管理者に通知しまして、今後の管理運営の改善を図ってまいります。評価の内容と皆様からいただきました御意見については、漏れなく我々のほうで伝えさせていただきます。

一次評価について御説明いたします。

資料1「東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価一次評価総括表」を御覧ください。

こちらにつきましては、確認項目について、指定管理者からの報告書や日常の实地検査、ヒアリングなどを基に、計画どおり事業が実施されているか、「水準を上回る」、「水準どおり」、「水準を下回る」の3段階で評価をして、その合計点を算出して一次評価を行います。標準点は、全項目で「水準どおり」の評価を受けた場合の合計点で設定しております。

評価結果は、S、A、B、Cの4段階になっておりまして、具体的には合計点が標準点の1.33倍以上でS、1.25倍以上、1.33倍未満でA、0.88倍以下でC、それ以外をBと評価しております。

確認項目の設定につきましては、施設の設置目的や指定管理者の果たすべき役割などを踏まえまして、各館の管理運営基準ですとか事業計画に基づきまして、最も効果的に管理運営状況を評価できる項目を設定しております。

それぞれの確認項目に対する評価水準についても、同じく管理運営基準や事業計画等を根拠に設定しております。

本日の評価対象施設につきましては、令和2年度に指定管理者を特命選定しておりまして、特命要件は問題なく継続していることを確認しております。

一次評価結果につきましては、東京文化会館、東京芸術劇場、ともにBとなっております。詳細な評価理由につきましては、事前に御説明させていただいているため、割愛させていただきます。

続きまして、二次評価についての御説明です。

項目の評価は、一次評価と同様、「水準を上回る」、「水準どおり」、「水準を下回る」の3段階で評価いただきます。

二次評価結果は、一次評価と同様、S、A、B、Cの4段階で評価いただくことになっております。

二次評価の進め方についてですけれども、委員の皆様から事前に御提出いただいた評価を集約したものが資料2でございます。委員の皆様の評価が分かれた場合は、より多かった評価を記載しておりまして、異なる評価を括弧書きで併記させていただきました。

この後に各館からプレゼンテーションを行い、質疑応答、松本専門委員からの財務状況説明、名古屋専門委員からの施設サービスの状況説明等を参考にこの二次評価（案）を検討いただき、評価を決定していただければと存じます。

なお、二次評価（案）は、財務の状況については松本専門委員、施設サービスの状況については名古屋専門委員を含め、皆様の評価を集約しております。

「改善が望まれる点」について補足させていただきますと、先ほど申し上げました「東京都指定管理者制度に関する指針」において、「改善が必要な場合又は改善が望まれる場合には指定管理者に対し、改善策の策定と速やかな実施を指示する。指定管理者の取組内容を確認・公表し、その結果を次年度の評価委員会に報告する」とされております。

説明は以上になります。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、議事のほうに移らせていただきたいと思います。

なお、二次評価の決定については、委員の皆様の合議により決定させていただければと思いますが、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

ありがとうございます。

そのほか先ほどの事務局からの説明について御質問はございますか。よろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、次第に従いまして、「3 プレゼンテーション及び質疑応答」に移ります。

（各館・歴史文化財団本部職員 入室）

金山部会長： それでは、各館及び歴史文化財団本部から、着座のままで結構ですので、自己紹介をお願いいたします。

松井総務部長： 本日は御説明の機会をいただきましてありがとうございます。東京都歴史文化財団総務部長の松井と申します。よろしくお願いいたします。

では、各館の担当を続けて御紹介させていただきます。

両角副館長： 東京文化会館副館長 両角と申します。よろしくお願いいたします。

長谷川舞台管理担当課長： 管理課舞台管理担当の担当課長の長谷川です。よろしくお願いいたします。

梶事業企画課長： 事業企画課長 梶と申します。よろしくお願いいたします。

大橋営業推進担当課長： 同じく営業推進担当課長 大橋と申します。よろしくお願いいたします。

鈴木副館長： 東京芸術劇場副館長 鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

清水管理課長： 同じく管理課長 清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

矢作事業企画課長： 同じく事業企画課長 矢作でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

松井総務部長： 続きまして、財団本部の職員を御紹介させていただきます。

工藤企画部長： 企画部長 工藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

早乙女総務課長： 総務課長 早乙女と申します。よろしくお願いいたします。

湯川企画課長： 企画課長 湯川でございます。よろしくお願いいたします。

葛田財務課長： 財務課長 葛田と申します。よろしくお願いいたします。

早崎人事担当課長： 人事担当課長 早崎と申します。よろしくお願いいたします。

歴史文化財団からは以上となります。

金山部会長： どうもありがとうございます。

それでは、各館のプレゼンテーションを始めます。

各館、8分程度で説明をお願いいたします。事務局のほうで途中、時間をお知らせいたしますために、ベルを鳴らさせていただきます。所要時間が経過しましたら1回、3分超過しますと2回鳴らさせていただきます。時間内の説明をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、東京文化会館、両角副館長から令和7年度の施設運営についてプレゼンテーションを行っていただきます。

両角副館長、どうぞよろしくお願いいたします。

両角副館長： それでは、東京文化会館から御説明させていただきます。

お手元の令和7年度目標達成シートを御覧ください。中央の令和7年度達成目標と右側の成果と課題の欄で御説明させていただきます。

まず、項番の1番、音楽・舞台芸術の創造・発信でございます。

舞台芸術創造事業の歌劇『ブラームス マゲローネのロマンス by ティーク』は、演出家、岩田達宗氏の発案による既存歌曲集を歌劇化する企画の第3弾でございます。演出家、

出演者も満足する完成度の高い公演となり、入場者数は441名となりました。

続いて、無声映画に生演奏と電子音楽を付与した I R C A M シネマ第 2 弾、『チャップリン・ファクトリー』です。フェスティバル・ランタンボレルの一環として実施しております。集客面では苦戦いたしましたが、I R C A M の協力により台湾との巡回公演とすることで、経費の削減につなげただけでなく、出演者の一人であるソプラノに、第 22 回・23 回東京音楽コンクールの声楽部門第 2 位の砂田愛梨氏を東京公演、台湾公演で起用し、ともに高い評価を得、国際的に活躍する一歩となりました。生演奏部分については、フランスと日本のアーティストの共演により 70 奏を組み、若手日本人には好機となっただけでなく、新たな顧客層の開拓に成功してございます。

響の森につきましては、6 月と 1 月に二度開催、それぞれ記載の入場者となっております。

オペラ B O X、『泣いた赤おに』につきましては、入場者数は 507 名となりました。令和 6 年度から実施するネクスト・クリエイション事業で同じ公演を立川で実施しており、実質 2 公演の形態となったことで、出演者の経験値と効率性が高まりました。上野、立川とも、ワークショップに参加した児童、生徒、学生がオペラをつくり上げることに参画し、立川においてはレセプションの職業体験もあり、将来の人材育成にも寄与しております。

評価指標は記載のとおりでございます。

オンラインプログラムにつきましては、制作 2 件、アクセス件数、こちらは配信数のことですが、ゼロ件となっております。現在、権利関係を整理しており、整次第配信を開始する予定です。

続いて、項番の 2、新進音楽家等の専門人材の育成・支援です。

東京音楽コンクールでは、木管、声楽、ピアノ部門を開催いたしました。421 名の応募者の中から最終的に 14 名が入賞・入選し、若手音楽家の発掘に貢献してまいりました。二次予選以降は公開で行い、2,778 名の聴衆が来場しております。来場者は投票を通じ自身の見いだした演奏家を応援し、結果発表や授賞式を見届け、その後の公演にも足を運ぶなど、良質なファン創出にも結びついております。

また、カーザ・ダ・ムジカの来日時を含めまして、通年でワークショップ・リーダー育成プログラムを実施しております。ポルトガルへの派遣研修も行い、一部のワークショップでは東京音楽コンクール入賞者を交えたプログラムも実施し、育成型にふさわしいプログラムを構築できました。

評価指標である各事業への東京音楽コンクール入賞者等の起用数は、延べ 241 人となっております。

続きまして、項番の 3、次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組の実施でございます。

上野地域と連携した「夏休み子ども音楽会」は、大ホールでオーケストラ公演を実施い

たしました。小中学生525名を含む2,003名が入場し、子供のクラシック音楽鑑賞体験創出に寄与いたしました。周辺文化施設へのパスポート参加者数も延べ2,941名に達し、上野地区全体の回遊性向上にも寄与しております。

都内小中学校等への東京音楽コンクール入賞者等によるアウトリーチコンサートは、資料には数字は記載してございませんが、5,239名が参加、また、あらゆる人々に向けた参加型ワークショップにつきましては、7,483名が参加しております。

コンビビアル・プロジェクトにつきましては、リラックス・パフォーマンスを大ホールのオーケストラ公演として実施しております。特別支援学校や社会福祉施設へのアウトリーチなどに加え、資料には記載してございませんが、TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクトの一環で実施したクラシック音楽とデジタルアートが織りなす新たな芸術体験など、あらゆる人々が参加・鑑賞する取組を行ってまいりました。参加者同士や当事者と職員の理解も進み、担当職員の成長にもつながっております。小児がん等の子供が在籍する院内学級でもワークショップを実施し、リアルとオンラインを併用して実施して、継続した開催を期待されております。

評価指標は記載のとおりでございます。

項番の4番、質の高い鑑賞機会の提供です。

オーストラリア・バレエ団、英国・バーミンガム・ロイヤル・バレエ団、ウィーン国立歌劇場などの公演が開催され、世界最高水準の舞台鑑賞の場となりました。

大ホール、小ホール、ともに安定して公演が開催されましたが、空きが出た際は利用団体と調整を図り、稼働率の確保に努めました。

ホール利用団体はリピーターが多いですが、初めて利用する団体に対しては丁寧にニーズを聞き取り、事前の打合せを重ね、公演を安全・円滑に開催できるようサポートに努めました。また、希望が増えているホワイエを利用したアフタートークやミニコンサートなどのイベント開催につきましては、館内のほかの施設への影響が及ばないように、ホールの利用調整などを適切に行った上で実施しております。

評価指標である稼働率は、大ホールは目標90%に対して95.9%、小ホールは80%に対して86.3%でございます。

最後に、項番の5、ホスピタリティの充実と安全対策の強化でございます。

視覚・聴覚障害者への情報サポート・鑑賞サポートを推進するため、触察模型を作成・設置したほか、聾者が参加して手話で案内するバックステージツアーも開催いたしました。聾者や多言語話者の対話内容をテキスト表示できる透明ディスプレイを設置したほか、総合案内では手話検定の資格保持者の対応時間の増加、指差しシートの設置を行ってまいりました。

有事における一時滞在施設開設時の情報連携として、災害時特設公衆電話機や充電スポットの設置訓練も行いました。館内各所にAED救命テントと布担架を配備し、館内事業者も含めて研修を行ってまいりました。また、聴覚、視覚、車椅子利用者などを招いた避

難誘導訓練も行っていました。易しい日本語を使用した災害時の案内チラシや旗を作成し、訓練で使用してございます。

最後に、資料には記載がございませんが、大規模改修工事に向けた対応について簡単に御説明させていただきます。

館内への掲出、ホームページやSNSなどでの発信、各種会議での説明などによりまして、4月1日からの音楽資料室の休室、5月7日からの全館休館の告知に向けた準備を進めてまいりました。改修期間中の仮事務所の移転を進め、内装工事などを行い、改修工事に向けた準備を進めてまいりました。

東京文化会館からの説明は以上でございます。

金山部会長：どうもありがとうございました。

東京文化会館に関していかがでしょうか、何か御質問はございますか。

なお、各館への質問は、会議の進行上、5分程度でお願いいたします。

いかがでしょうか。

名古屋委員：施設サービスの名古屋です。よろしくお願いします。

事前にいただいていた資料のどこかに、国際キャリアアップ支援の記載があったと思いますが、それがポルトガルへの研修ですか。どういうことをやったのかという内容を簡単に教えてください。

梶事業企画課長：国際キャリアアップ支援につきましては、ポルトガルの研修とは別のものございまして、東京音楽コンクール入賞者の若手の演奏家が海外のアーティストと共演したりすることによって、研さんする機会を生み出すというものでございます。こちらの報告の中で今特に入れてはございませんけれども、フランスのレ・ヴォルク音楽祭やランタンポレルで招聘したアーティストと一緒に演奏したり、マスタークラスを受けたりということで学んでおります。

名古屋委員：何人ぐらい対象者はいらっしゃるのでしょうか。

梶事業企画課長：すみません、今すぐに数字が出なくて申し訳ないんですけども、若手のアンサンブルを組みましたので、大体30人ぐらいの人数が一緒に共演をしているかなと思います。

名古屋委員：ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

前田委員、お願いします。

前田委員：紀伊國屋の前田です。

文化会館さんの館内施設の中に音楽資料室があるかと思います。膨大な数の貴重な音楽資料も所蔵されているということで、こちらは今後、例えばデジタル的な閲覧、もちろん許可的などところで問題のないものに限ると思うんですけども、そういった可能性というのはあるのでしょうかということが1つ。

もう一つは、大規模改修工事に向けた御準備として、この令和7年度の中で大変な活動があったと思います。その中で、これは質問ではないのですが、来館者のお声や利用団体様のお声、そして現場スタッフ様のお声を十分耳を傾けて、とてもいい劇場再開に向けて動いていただければと思います。

梶事業企画課長：それでは、梶から音楽資料室のデジタル化について回答させていただきます。

現在、3万9,000点ありましたLPの当初は館内に来ないと検索ができなかったものをデジタルで、オンラインで検索ができるように、今準備を進めているところでございます。資料につきましては、いろいろ権利関係が難しくて、すぐに見られるようになるかという、なかなか難しいことはあるかと思いますが、貴重資料で権利に抵触しないものにつきましては、順次デジタル化して公開していく予定にしておりますので、少しお待ちくださいませ。

前田委員：ありがとうございます。素晴らしい施設だと思うので、ぜひそうなるように期待しております。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、東京文化会館についてのプレゼンテーションはこれで終了いたします。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、東京芸術劇場、鈴木副館長、よろしくお願いいたします。

鈴木副館長：それでは、東京芸術劇場より令和7年度の事業成果について御報告申し上げます。

令和7年度の当館は、上半期は令和6年度下半期からの緊急工事のために休館をしていました。この間も歩みを止めることはなく、ゴールデンウィークには劇場前のグロウバルリングや劇場前広場を活用したTACT FESTIVALを開催いたしました。また、通年で実施している人材育成事業等は、豊島区内の地域施設を活用することで、計画していた全事業を滞りなく完遂いたしました。

8月28日にはお客様をお迎えしての避難訓練コンサートを実施しまして、9月6日のリオープンデー「芸劇大公開!」、翌7日の野田秀樹芸術監督と次期舞台芸術部門芸術監督、岡田利規氏による特別トークイベントをもって、本格再開いたしました。この2日間で延べ約2万5,000人のお客様をお迎えしまして、劇場の再開を印象づける絶好のスタートを切ることができました。

あわせて、エントランスへのアクセシビリティ・デスクの新設やウェブサイトのリニューアルを行いまして、よりオープンでアクセシブルな劇場環境を整備いたしました。

そして、下期には、サラダ音楽祭や東京舞台芸術祭、TOKYO FORWARD2025文化プログラム『TRAIN TRAIN TRAIN』などを集中的に展開いたしました。

経営面におきましても、文化庁の劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業の2年目として順調に採択されまして、自主事業、受託事業、ともに収支相償を達成し、極めて安定した

運営を実現することができました。

こうした状況の下、当館のミッション達成に向けまして強力に推進した事業のうち、特に3つの重点項目について御評価いただければと思っております。

お手元の令和7年度目標達成シートを御覧ください。

まず、第1に、音楽・舞台芸術表現の可能性を探究する劇場として、良質な音楽・舞台芸術作品の国内外への創造・発信、及び国際的な舞台芸術の拠点となる劇場として、国内外の劇場・音楽堂等との積極的な交流事業を推進いたしました。これは達成目標の1番、2番に該当します。

当館は、国内最高峰の表現を追求するとともに、グローバルなネットワークを最大限に活用いたしました。具体的には、「V S ピアノ」シリーズの継続展開をはじめ、杉原邦生演出による共同制作オペラ『愛の妙薬』を東京を含む3都市で上演しまして、各地で極めて高い評価を得ることができました。

また、舞台芸術祭「秋の隕石2025東京」では、ロバート・ウィルソン演出、イザベル・ユペール主演作品など、海外の高品質な舞台作品を招聘いたしました。

また、パリを拠点とする演出家による『飛び立つ前に』や国際共同制作『ヨナ』を上演しまして、当館の国際発信力を国内外に強くアピールいたしました。

さらに、ホリプロとの共催作品、『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』は、イギリスやパリでの海外公演を成功させまして、また、ルーマニア国立劇場と東京芸術劇場との共同制作『ヨナ』は、ヨーロッパ4か国6都市及び国内5都市を巡るツアーを達成いたしました。

また、ダミアン・ジャレと名和晃平による『Planet』では、ロームシアター京都と共同するなど、国内外の劇場と強力な連携体制を構築しております。

そして、第2に、誰もが芸術文化を身近に触れることができる劇場を目指し、積極的に活動いたしました。こちらは達成目標4、5、6、7に該当する部分でございます。

あらゆる人々へ開かれた劇場を目指し、多彩なアプローチを試みました。休館中のゴールデンウィークに開催したTACT FESTIVALや、リオープン後の9月に約1万2,000人を動員しました「集まれ！池袋みんなの大道芸」では、劇場前広場などの屋外会場で展開しまして、新たな観客層を開拓いたしました。

そして、障害の有無を超えて創作に参加したTOKYO FORWARD2025文化プログラム『TRAIN TRAIN TRAIN』は、アクセシビリティの観点からも先進的な挑戦として高い評価をいただきました。

さらに、ダンスファシリテーター養成講座「のはらカレッジ」やインクルーシブ音楽「ホワイトハンドコーラス」、在住外国人とつくり上げる多文化共生事業、Tokyo Borderless Theatre Project、「TBTP」など、共生社会の実現に向けた実践を深化させております。

また、戦略的な貸館や首都圏の実力派劇団及び楽団との共催公演により最高峰の芸術を広く届けるとともに、休館中も質の高い情報発信により、Xのフォロワー数は全国の公共

劇場でもトップクラスを維持しまして、高い認知度と存在感を堅持いたしました。

第3に、若手アーティストや芸術の担い手を育成し、共に創造発信を行う劇場としての役割を果たしました。こちらは達成目標3に該当いたします。

芸劇舞台芸術アカデミー、令和7年度の研修生3名は、それぞれ公共劇場、アートNPO、アーツカウンシルへの就職を果たしまして、確実な実績を上げました。

東京演劇道場では海外から3名の演出家を招聘したワークショップを実施しまして、音楽分野でもGOAアカデミー生を対象に、フィルハーモニー・ド・パリのメンバーによるマスタークラスを開催するなど、プロフェッショナル人材の育成に貢献いたしました。

また、文化庁、文化施設による高付加価値化機能強化支援事業の助成金を活用しまして、令和6年度から始動した「TMTギアー東京芸術劇場クリエイター支援プロジェクト」では、海外展開を見据えた若手アーティストのみならず、インハウスのプロデューサー及び技術スタッフや映像メディアチームの育成まで踏み込んだ、総合的な劇場での人材開発を進めております。

最後になりますが、令和7年度は、17年間にわたり当館を牽引してきました野田秀樹芸術監督時代の掉尾を飾るにふさわしい、圧巻のクオリティを誇る1年となったと思っております。

また、藤倉大氏をアーティストックディレクターに迎えて、世界各国の今の音楽を届けてきました「ボンクリ・フェス」が最終回となりました。

舞台芸術部門、音楽部門、ともに次代へ継承する準備を進めるなど、未来を見据えた大きな転換期でもありました。令和8年度からの岡田利規舞台芸術部門、山田和樹音楽部門の両名による新芸術監督体制に向けて、就任前からスタッフとの対面・オンラインでの密な対話を重ねて、準備を万全に整えているところでございます。

前年度の評価において特段の改善課題はございませんでしたが、それに甘んじることはなく、新体制の下でさらなる高みを目指して、世界の舞台芸術を牽引する劇場として発展を続けてまいります。

以上で、東京芸術劇場からのプレゼンテーションを終わります。御清聴ありがとうございました。

金山部会長：ありがとうございました。

それでは、ただいまのプレゼンテーションについて何か御質問等はございますか。いかがでしょうか。

井原委員、お願いします。

井原委員：芸術文化観光専門職大学の井原でございます。御報告ありがとうございました。

目標達成シートの5番の事業についてお伺いしたいと思っています。社会共生セミナーで「イタリア刑務所演劇の実践」というのをテーマに開催されたということで、私もホームページなどで拝見しました。これはセミナーとして行われたということですが、何か事例を学んだということなんですか、それとも何か事例を学んで、そのまま実装してい

こうというような目標があって開催されたのでしょうか。詳細を教えてくださいと思います。

矢作事業企画課長：それでは、事業企画課長の矢作から御回答させていただきます。

今回こちらのものにつきましては、オンラインで開催しました講座事業になっております。実践を目指したというよりは、まだ日本国内におきましては、このいわゆる刑務所などで行われるような演劇ワークショップなどの実践例は、非常にまだ数が限られておりますので、それを紹介する、イタリアでの事例を紹介するということを主眼にオンラインで講義をしております。参加者につきましては、こちらが思っている以上に御興味をいただいた方々が多くいらっしゃいまして、非常に多くの、こちらが思っていたよりも多くの参加者に聴講していただいたという状況でございます。

井原委員：ありがとうございます。

去年、「拘禁刑」という新しい制度が加わったということで、刑務所でのアート活動が今後盛んに行われていく時代になっていくかなと思いますので、芸劇さんがそのトップランナーを走っていただけたらと存じます。ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

名古委員、お願いします。

名古委員：東京芸術劇場も芸劇舞台芸術アカデミーによる制作人材の育成事業をされています。舞台技術セミナーについても記載があったかと思いますが、これについて具体的にどういうことをされているのか、対象となる人がどういう方で、どのように集められたのかを教えてくださいませんか。

矢作事業企画課長：では、本件も事業企画課長矢作から回答させていただきます。

まず、芸劇のアカデミーに関しましては、こちらは将来、公共劇場などでアートマネジメント人材として劇場などで働く制作スタッフの育成に努めるものがメインでございます。これに併せて、これがプロフェッショナル人材の育成の部分でございまして、これにつながる手育成、いわゆる舞台芸術の持っている様々な機能と、いわゆるワークショップに参加してコミュニケーション能力を高めるとか、いろんな様々な理解を深めるための能力を高めるような人材を育成するというのがピラミッドの頂点のプロフェッショナル人材の育成、その中段につながる手育成、その裾野に、一般の方々により広く舞台芸術の魅力を伝えるような講座事業とかワークショップ事業などを行うという、その構造の中でやっております。

プロフェッショナルの育成につきましては、一応社会人経験があって、いわゆる転職、1回何かほかの仕事をしていただけれども、やはり劇場などで働いてみたいと思う方の支援をするという研修事業でございまして、様々な講師の方をお呼びして座学で学ぶという部分と、東京芸術劇場の様々な現場、演劇の創作の部分や教育普及の部分や、今ですと芸術祭などの現場などでの実践、いわゆるOJT、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを通じて、将来、11か月の研修になりますので、そこを通じて次の4月から実践に、働ける人間を育成するということをしております。

舞台技術セミナーというのは、それとはちょっと異なっているラインで考えておりまして、もう少し学生さんからプロの手前ぐらいの方々の舞台技術に関する経験と知識を、劇場の舞台技術スタッフがお伝えするような講座事業を行っているというようなものになりまして、これは年に1回ぐらい実施しているというものになります。

名古屋委員：ありがとうございます。

私が勘違いしていました。様々なセミナーがあることがわかりました。このセミナーは有料でしょうか、無料でしょうか。

矢作事業企画課長：研修制度は逆に現在は雇用状態で拘束をして、働きながら学ぶというような構造になっています。それからあと、講座には無料のものもあれば有料のものもあると。それは中身と対象によって無料の講座、有料の講座などを行っているという状況でございまして、このアカデミーのメインとしては、実際にこの先働く人間を育てていくということを目標としてやっているものでございます。

名古屋委員：ありがとうございました。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、これで東京芸術劇場のプレゼンテーションを終了いたします。

どうも皆様、ありがとうございました。どうぞ御退室ください。

(各館・歴史文化財団本部職員 退室)

金山部会長：それでは、ここで一度休憩ということでさせていただきます。10分間休憩いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

午後3時39分休憩

午後3時49分再開

金山部会長：それでは、再開したいと思います。

次第「4 財務状況説明」に移り、各館及び指定管理者の財務状況についてということで、松本専門委員から御説明いただきます。

専門委員の方々の評価の視点に関しては、タブレット端末にございます参考資料「財務の状況及び施設サービスの実施状況調査 評価の視点について」を御覧ください。

それでは、松本専門委員、よろしくお願いいたします。

松本委員：まず、東京文化会館については、改修費用がかかっておりますが、管理施設の移転費用が予定より少額で済んだため、費用の削減ができたということがあります。赤字予算から結果的に黒字化しており、財務的に問題ないと考えられますので、評価は○ということをつけさせていただきました。

続きまして、東京芸術劇場でございます。これは令和7年9月から再開しているということでございまして、予算より赤字幅は縮小されていますが、結果的には赤字にとどまったということでございまして、評価は赤字ということで△にさせていただきましたけれども、後ほど公共施設という観点からも再度、評価をされたいと思っております。

以上でございます。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、ただいまの御説明について何か御質問ございますか。

よろしいですか。

それでは、続きまして、次第の「5 施設サービス状況の説明」について、名古屋専門委員からどうぞ御説明をお願いいたします。

名古屋委員：施設サービス状況について説明させていただきます。

まず、東京文化会館は、もう既に2025年度の時点で改修が決定していたので、ハード面での評価は特に問題なしとしています。

ホームページについては、大きく変わったということではないのですが、チケットの購入やアクセスといった、恐らく訪問者が一番知りたいだろうという情報への導線はすごくいいと思いました。

施設の面でいうと、視覚・聴覚障害者のためのサポート機器、触察型模型や透明ディスプレイの設置、あとはリラックス・パフォーマンスや特別支援学校へのアウトリーチ活動のような、アクセシビリティの面はすばらしいと思い、評価をしています。

そして、若手の演奏家の方の登壇機会をつくったり、演奏家を育てる機会創出を積極的にされているということも、評価のポイントとさせていただきました。

様々な年齢の方や背景のある方、ハンディキャップがある方ですとか、そういう様々な方に芸術や文化に触れる機会をたくさん作って、まず観客を育てるということと、もう一方で演奏家、演者を育てるという両方をされています。この辺は時間もお金もすごくかかることですが、公的な文化施設としては重要な役割ではないかなと思っています。

2026年度は休館になってしまいますので、今いろんな外部の施設で演奏会の企画をされていますが、休館中にいかに東京文化会館の不在感を埋めるかというところが2026年度は課題になってくるのかなと思って、見守っていききたいというふうに思っております。

東京芸術劇場については、リニューアルしましたが、工事した場所が配管のような見えない部分だったので、リニューアル感は正直薄かったですが、リニューアルに合わせてホームページを一新されていて、これが以前に比べて格段によくなったなと思っています。この芸術劇場だけホームページがずっといまいちな状態だったのが今回本当によくなって、アクセスやチケット情報など、一番知りたい情報のボタン位置がとてもよくなって、スマホでもすごく見やすくなったと思いました。

広報、SNS等の部分に関しては、先ほどもフォロワー数がすごく多いというお話がありました。東京芸術劇場は演者さんや興行主がSNS投稿を頻繁にされていますし、プロモーションも興行主が積極的にされています。それを丁寧にリポストしているということもあり、投稿数もすごく多くて、そこは評価したいと思います。

一方で、SNSは当たり前になってきているので、ここから向上しようと思うと、ユーザ体験の向上とかブランディングの観点で、公演以外の投稿がもっとあってもいいのか

なと思っています。例えば劇場の舞台裏みたいなものとか、劇場の周辺のお勧め食べるスポットみたいなものとか、あとは楽屋差し入れに人気の御近所の名物みたいなものとか、何かそういう切り口の違う情報を発信することによって、東京芸術劇場に行く理由がつくられるのではないのかなと思っています。公演情報も、ただ何月何日にこんな公演がありますよというのももちろん大事ですが、どうして今この演目をするのかとか、専門家の方のこの演出の意味などを、公演終了後でもいいので、なぜこういう演出にしたのかのようなプロの解説があると、より観劇体験が豊かになり、東京芸術劇場自体のブランディングにもなるのではないのかなと感じています。

とても難しいことなので、リソースも必要ですし、すぐにできることではないですが、施設としてポテンシャルがある分、次のステップに行くときののではないのかなと思いました。

私からは以上となります。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、ただいまの御説明について何か質問等はございますか。

よろしいですか。

それでは、次第に従いまして、「6 審議」に移らせていただきます。

進行方法についてですが、お手元の資料2「管理運営状況評価（二次評価）（案）」について、各館ごとの内容を検討し、評価を決定していきたいと思います。

それでは、東京文化会館から各館ごとに進めてまいります。

まず、二次評価（案）について事務局から御説明をお願いいたします。

山添課長：文化会館につきまして御説明させていただきます。

二次評価につきましては、BとAの方がいらっしゃいましたので、括弧書きでAを書かせていただいています。

管理の実施状況についても○と△になっていまして、施設の安全管理、利用者サービスの向上ですとか、あとは情報管理については、一層の徹底が必要ということでコメントを書かせていただいています。

財務の状況は○、助成金や協賛金を獲得ですとか、あと安定的な財務運営と運営基盤強化について書いています。

事業の実施状況については◎と○という形で、説明にもありましたけれども、若手育成ですとか子供向け事業が高い成果を上げていると。担い手育成と芸術文化のその拡大に貢献しているという形で書いております。

運営の実施状況につきましては○、文化施設ですとか障害者施設との連携を積極的に推進しつつ、満足度と目標は成果を達成しているという形で書いております。

施設サービスの実施状況につきましては◎と○が同数という形になっていまして、アクセシビリティ対応の充実ですとか、あとはショップ・レストランの事業者と連携した事業運営という形で書いております。

方針と目標の達成状況につきましては○になっていまして、事業計画の基本方針に沿った事業運営が適切に行われているということと、あとは若手育成ですとか教育普及についてコメントしております。

特記事項について、文化会館が現時点で休館に入って大規模改修しており、委員の方からもコメントをいただきましたので、令和8年度から休館に入ることと休館中の事業にも期待したいという形で、コメントを書かせていただいております。

説明は以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、例年と同じような形で進めていきたいと思います。

まず、東京文化会館につきましてですが、評価表のほうを御覧ください。

それでは、まず各項目の評価についてですが、いかがでしょうか。管理状況、管理の実施状況ですね、一番上のところ、ここから◎、○、△、この3種類いずれかになります、各項目ごとに意見を統一させていただきたいと思います。

まず、管理の実施状況についてですが、これは前田委員が△、あと私と井原委員が○ということになっておりますが、いかがでしょうか。この辺は多数決でいうと○になるんですが、前田委員、いかがですか。

前田委員：情報管理についてのところで少し厳しめにつけさせていただいたというところなのですが、こういったいわゆるインシデント、事後対応であるとか再発防止策、これらが重要で、もうこれらに対して取り組まれているということですので、それ以外のところはもう全く問題はないかと思っておりますので、○でよいと思います。

金山部会長：よろしいですか。

前田委員：はい。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、ただいま前田委員のコメントがございましたように、ここは○で統一させていただくということで、○にいたします。

では、続きまして、財務の状況、ここは松本専門員をはじめ、皆さん○ということですので、○ということにさせていただきます。

続きまして、事業の実施状況、これは◎が井原委員と私と、それから前田委員が○ということで、この辺いかがでしょうか、前田委員は。

前田委員：こちらも◎でももちろん差し支えない○という意味でして、特に文化会館さんは若手のアーティストさんの発掘・育成・起用に対して非常に力を入れられているので、◎でも構いません。

金山部会長：よろしいですか。ありがとうございます。

井原委員、よろしいですか、◎、このままということで。

井原委員：はい。特に「ランタンポレル」という事業は、集客が非常に難しそうな状況ではある一方で、一般向けしにくい公演がさらにシリーズ化されることによって、何らか効

果が発揮されるように努力をしているところを評価したいなと思って、◎にしました。

金山部会長：ありがとうございます。

それでは、ここにつきましては◎ということにさせていただきます。

続きまして、運営の実施状況、これは皆さん、○ということですので、○に統一させていただきます。

そして、次の施設サービスの実施状況、ここは◎と○ということで分かれております。この辺はいかがでしょうかね。

名古委員、○ということですが、名古委員、何かコメントはございますでしょうか。

名古委員：私は、アクセシビリティの対応とかはすごくいいなと思ったのですが、一方で、私は何年も続けて発言していますが、「音脈」という冊子は転換期だと思っています。公演情報はもう紙にする必要がないと思います。でも「音脈」は表紙のデザインや雰囲気はとても素敵です。ですから、紙にするのであれば、もう少し保存意欲を駆り立てられるような内容に振ったほうがいいのではないかとずっと思っています。そういう意味では「音脈」をもうちょっと考えてほしいという△と、広報的に、若年層の広報をもうちょっと頑張ってもらいたいというのがあって、◎と△と○を足して真ん中で○にしようみたいな感じで、○にしてみました。

金山部会長：ありがとうございます。

いかがでしょうか。◎、○ということなんですが、その辺のちょっと今、機関誌の課題というものはありますが。

また、あと前田委員と井原委員は◎ということですが、この辺はやっぱり強調されますか、◎。

井原委員：今、名古委員がおっしゃった「音脈」については私もとてもデザインがよくて、手に取ってみようと思う気持ちになるような印刷物であると思います。使っている紙も大変いいものなので、ある程度の期間は置いておこうという気持ちになるのですが、情報が古くなった後にそれをまだ残しておきたいかどうかとなると、これだけいい紙を使っておきながら、そういう気持ちにはならないというのは、ちょっともったいないなという気持ちになるので、名古委員の意見には多少賛同いたします。

金山部会長：前田委員はいかがでしょうか。

前田委員：紙の機関誌に関しましては、私のところも劇場をやっております作成しているんですけども、なくすわけにもいかない、非常に悩ましいところで、「音脈」に関しまして、たしか私も以前、ちょっと文化会館さんのほうももしかすると悩まれているかもしれないという話をさせていただいたので、確かにそこは課題感はございますね。

名古委員：本当にやめるのではなくて、中身の方向転換があればいいのになと思ってます。表紙や、デザインはすごく素敵ですし、やめるというよりも、方向転換をしてもいいのになとも思っています。

金山部会長：ありがとうございます。

ここでやめろとか続けろとかということをジャッジする場ではないので、そういうコメントが委員の中からあったということで、これは議事録のほうに記載しておいていただければと思います。

そのことについては一つの課題感というものがありますので、ここはあえて◎ということではなくても、その課題感という意味を込めて○ということでもよろしいかなというふうには、今お話聞いていて思いましたけれども、いかがでしょうか。それでよろしいですか。

それでは、最後のところですが、方針と目標の達成状況と。これは皆さん○ということで、○にさせていただきます。

それでは、確認をいたします。上のほうからですが、管理の実施状況から、○、○、◎、○、○、○ということになります。

それでは、続きまして、特記事項、これは事務局から先ほど御説明がありましたように、今後取り組むべき点というところで、事務局のほうで委員からの意見を反映させた形でこのように記載をしていただきましたが、これについてはこのとおりでよろしいでしょうか、あるいは何か修正が必要ですか。

よろしいですか。

では、特記事項につきましては、この原案どおりということでお願いいたします。

それでは、東京文化会館については以上ということで。

山添課長：確認なんです、二次評価はBでよろしかったでしょうか。

金山部会長：失礼いたしました、二次評価はBということでよろしいでしょうか。

では、Bということでお願いいたします。

それでは、続きまして、芸術劇場に移らせていただきます。

それでは、事務局から御説明をお願いいたします。

山添課長：芸術劇場の二次評価（案）について御説明します。

二次評価につきましてはBになっております。

管理の実施状況については△と、括弧書きで○という形になっていまして、施設の安全管理ですが、利用者サービスの向上に取り組んだことはあるんですけども、こちら情報管理につきましては、一層の徹底が必要という形でコメントさせていただいております。

財務の状況については○と括弧書きで△。こちら助成金や協賛金を獲得するなど、安定的な財務運営には取り組んでいると書いております。

事業の実施状況については◎と括弧で○。途中まで休館ではありましたが、貸出施設が高い稼働率を維持しているということと、あとは海外連携、人材育成の事業をしっかりと取り組んでいて、担い手育成なんかを成果を上げていると書いております。

運営の実施状況については○で、国内外との連携強化ですとか、あとは国際的な人材交流、劇場間のネットワーク強化を行ったと書いております。

施設サービスの実施状況ですが、○。アクセシビリティ対応の充実に加え、ショップ・カフェとの連携という形で書いております。

方針と目標の達成状況については○。事業計画の基本方針に沿って事業運営が適切に行われているという形で、人材育成などの成果についてもコメントさせていただいております。

特記事項については、芸術劇場については特になしです。

説明は以上です。

金山部会長：どうもありがとうございます。

それでは、先ほどと同じような形で進めてまいります。

芸術劇場につきまして、まず管理状況、管理の実施状況ということについてです。ここは井原委員が○、前田委員と私が△ということになりますが、先ほど事務局からもありましたが、ちょっと管理状況について難があるという、そういう指摘がありましたけれども。いかがでしょうか。

この辺のところを踏まえてということで、井原委員、コメントをお願いいたします。

井原委員：私も△かなとは思っています。と申しますのも、この数年間にメールの誤送信が複数回発生しているようにお見受けします。今回に関しては委託業者によるものですが、外部の事業者に対してちょっとコントロールが利いていないのかなとお見受けしています。その原因が、事業としては大変すばらしいことをたくさんされていることは暗黙の了解ですけれども、一方で、職員の皆さんの業務がちょっと過密になり過ぎてしまっているがゆえに、業務を外部に委託しなければ追いつかないほどになってしまっていて、それが原因でメールの誤送信が発生してしまって、かつその対応も遅れたということであるならば、業務体制の見直しが必要なのかなとも思っています。そういう観点から考えるのであれば、△もしかりかなと思っております。

以上です。

金山部会長：前田委員、いかがでしょうか。

前田委員：一次評価の中でやはり△、2か所、その内容を確認させていただき、○をつけてあげたいところではあるのですが、ここはちょっと次に向けて、再発防止を考えていただくという意味で△をつけました。

金山部会長：ありがとうございます。

私も△にしたのですが、いろいろちょっとしたミスが。今、井原委員がおっしゃったけれども、こういうイベント関係というか、いろいろいいことはやっている、そっちの表向きは。だけれども、そっちに力がかなり比重をかけたがゆえに、裏方のこの管理状況というのが手薄になっているという状況は、なくはないのではないかなと思う。これは博物館も同じで、展覧会とかイベントに主軸を移すと限られた人数と資源ですから、コレクションの管理の部分については、手薄になるという状況があるんです。だから、それと似たような状況がもしかしたらあるのかもしれないなというふうに思います。だから○ではないなと思って、それで△にしたのですが。

今まで前田委員も井原委員からも同じようなコメントがあったと思いますので、ここに

については△ということにさせていただきます。ありがとうございました。

では、続きまして、財務の状況、これは先ほど松本委員から御説明ありました。赤字だけれども、そういったことも踏まえてでも、ここは特に財務上は問題はないということの△だということだったんですが、これはほかの委員の方は○ということですが、松本委員、いかがですか。

松本委員：○で結構です。

金山部会長：○でよろしいですか。ありがとうございます。

では、○ということにさせていただきます。

続きまして、事業の実施状況、これは私が○ですけれども、今日のプレゼンをやはり聞いていて、非常にいわゆる多くの事業をかなり充実した形でやっておりますので、◎に近い○という意味で、◎ということにさせていただきたいと思います。

では、続きまして、運営の実施状況、ここは皆さん、○ということですが、○でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、続きまして、施設サービスの実施状況、これも皆さん、○ということですが、名古屋委員、○ということになっておりますが、皆さんの各委員の評価を踏まえて、○ということよろしいですか。

名古屋委員：はい。

金山部会長：よろしいですか。じゃ、ここは○ということで統一いたします。

最後に、方針と目標の達成状況、ここも皆さん、○ということですので、○ということにさせていただきます。

それでは、確認をさせていただきます。管理の実施状況からですが、△、○、◎、○、○、○ということで、総合評価はBということです。

そして、続きまして、特記事項につきましては特になしということですので、このままということにさせていただきます。

以上、御質問等、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、最後になりますけれども、これも恒例になりますが、総評ということでお願いしたいと思います。都立文化施設全般や東京都に対する御意見など頂戴したいと存じますが、いかがでしょうか。お一人ずつお願いいたします。

では、どうしましょうか。専門委員の方からお願いいたします。

松本委員：直接的な問題じゃないのですけれども、時節柄ということで、さっき関係者の方がいたときにお伝えすることもできたのですけれども、やっぱり防災というのですかね、ホールなので一気に多人数が入るということで、そこで大きな地震とか二次災害が発生したときというのは、防災の観点ですね、文化会館のほうはその観点もこの目標達成シートに記載されていまして、芸術劇場のほうも記載はあるんですけれども、ちょっと薄いかなというところで、なぜそうなったかという、先ほど委員長が申し上げたとおり、管理の

部分がちょっと手薄になっている可能性があるのかなというところがあって、こちらのほうは都に対しても財団に対しても各館についても、防災の観点もきちっとしていただくと。多分、芸術劇場のほうで情報管理が甘いということであると、ちょっと心配だなという印象を受けました。

以上でございます。

名古屋委員：私が評価委員になったときから比べると、ホール・施設がSNSをやっているのは当たり前になっています。最初はフォロワーも少なくてみたいところからだったんですが、もう今となってはSNS運営はやっていて当然になってきていますので、次は発信内容にこだわってステップを1つ上がるみたいのところに来ているかなと感じています。ホール・施設は、たくさん人に来ていただいて、いろんな情報発信をして、ユーザーと様々な形でコミュニケーションを取り、そしていい演目、いいものを見せていくというようなマーケティング的な要素と、やっぱり公的施設なので、時間もお金もかかる、でもやらなければいけないということのバランスを取っていくということがこれからますます必要になってくるなと今感じています。

以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

井原委員、よろしいですか。

井原委員：ありがとうございます。

一次評価の説明をオンラインでしていただいたときにちょっとコメントもさせていただいたことです。評価項目の管理状況の管理の実施状況の組織体制のところには人員配置と人材育成の取組というものがあるんです。その中で、私は財団が最近、専門人材を財団のスタッフの中で、舞台制作キャリアとか舞台技術のキャリアを積んでいくようなシステムをきちんとつくって、評価して、給与も段階的に上げていくというような取組をされ始めているということなので、それを何かもっと丁寧に評価できるような軸というか、視点みたいなものがこの委員会に今後あってもいいんじゃないかなと感じている次第です。

この指定管理の期間が終わって、次の指定管理の評価をするときの軸として、ちょっと細かい指標が入るといいのかなと思っています。自分たちの抱えているスタッフの専門性も上げていこうという意識がすごく高くていらっしゃるので、何らかそこはもっと評価したいと最近強く感じております。

以上でございます。ありがとうございます。

金山部会長：ありがとうございます。

じゃ、前田委員、お願いいたします。

前田委員：文化会館さんに関しましては、大規模改修工事に伴う休館ということで、今、国立劇場さんの休館なども含めて、いろいろなアーティストさんが活動する会場も少なくなっている。なので、ぜひ休館中も文化会館さんがこれまで取り組まれているような、若手の育成であったり発掘であったり起用というようなものを継続してやっていただきた

いなど。休館明けに向けて、やはり皆さんきっと待たれているかと思いますので、そこに向けて新しい取組を考えていただければなと思っております。

芸術劇場さんに関しましては、令和7年度は半年間の休館があったにもかかわらず、非常に多岐にわたる活動を精力的に行われている、これはもう驚くべきことだろうと思います。特に東京舞台芸術祭「秋の隕石」、岡田利規ディレクターによる非常に様々な作品、取組は、かなりユニークなものも多かったと思います。同時に、インバウンドのお客様もかなり増えてきているような印象も見受けました。今後、ですから、アクセシビリティであったり、またそれだけではなく、視覚障害者の方や聴覚障害者の方に向けた鑑賞サポート、こういったことに向けて課題をまたどんどん、民間の劇場ではまだまだ追いつけないというか、かなり進んだ取組をされておりますので、さらに我々の見本になっていただけるような形でやっていただければなと思っております。

以上です。

金山部会長：ありがとうございます。

今日いろいろとプレゼンをしていただき、先日は博物館・美術館のほうのプレゼンも聞かせていただいているわけなんです、思いつきみたいな形で申し訳ないですけども、各施設間あるいは各ジャンル間では様々な取組をしているけれども、博物館・美術館と劇場ホールってやっぱり縦割りのですね。そこに何か横串というか、言ってみれば連携活動というものが、これだけの組織力があって体制も整っている、多彩な人材もいるわけなので、もっと積極的に連携した取組があってもいいんじゃないかと思います。

例えば、芸術劇場のほうで刑務所のアウトリーチの事例を紹介していました。さきほど井原委員からお話を聞くと、そういうことをまだ劇場としてはやっていないけれども、大学のゼミでそういうことを取組をしているところが一例あるそうです。例えば博物館・美術館とも連携する。実は刑務所のアウトリーチは海外でやっています。ロンドン博物館では、過去にアーティストを講師にして実施している。ニーズはあるということなので考える余地はありそうですね。社会包摂が求められている時代の中では、一つの試みとしてそういうことに挑戦をしていくということもあっていいかなと思います。

では、各委員からのコメントは以上ということです。今日は文化ホールの部会でしたが、今後ともいろいろと取組を期待していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

山添課長：今日はいろいろお忙しい中、皆さんお集まりいただきありがとうございました。

こちらをもちまして今日のホール部会を終わらせていただきますので、本当にどうもありがとうございました。

午後4時38分閉会

以上